8-3 南海トラフ周辺の地殻活動(2020 年 11 月~2021 年 4 月) Crustal Activity around the Nankai Trough (November 2020 - April 2021)

気象庁 Japan Meteorological Agency

1. 南海トラフ周辺の地殻活動(第1図,第2図)

2020年11月~2021年4月の南海トラフ沿いとその周辺地域の震央分布図を第1図に、東海地域 から豊後水道にかけての深部低周波地震の震央分布図を第2図に示す.また、主な地震の発震機構 解を第3図に示す.詳細は、地震・火山月報(防災編)を参照^{1)~6}.

【南海トラフ周辺】

今期間, M5.0 以上の地震は発生しなかった.

- 以下の期間でまとまった深部低周波地震(微動)活動と短期的ゆっくりすべりが観測された.
 - ・2020年11月1日から11月6日まで,紀伊半島北部(第4図(a),(b)).周辺の複数のひずみ 計で変化あり.
 - ・2020年11月20日から11月27日まで、四国西部(第5図(a),(b)).周辺の複数のひずみ計で変化あり.
 - ・2020 年 12 月 11 日から 12 月 15 日まで,四国西部(第6図(a),(b)).周辺の複数のひずみ計で変化あり.
 - ・2020年12月15日から12月18日まで、四国中部(第6図(a),(b)).周辺の複数のひずみ計で変化あり.
 - ・2021 年 1 月 10 日から 1 月 30 日まで,四国西部から四国中部(第7図(a),(b)).周辺の複数のひずみ計で変化あり.
 - ・2021 年 2 月 14 日から 2 月 23 日まで,東海(第 8 図(a),(b)).周辺の複数のひずみ計で変化あり.
 - ・2021 年 2 月 23 日から 2 月 27 日まで,紀伊半島中部(第8図(a),(c)).周辺の複数のひずみ 計で変化あり.
 - ・2021 年 3 月 16 日から 3 月 17 日まで,紀伊半島西部(第 9 図(a),(b)).周辺の複数のひずみ 計で変化あり.
 - ・2021 年 3 月 20 日から 4 月 1 日まで,四国西部(第 10 図(a),(b)).周辺の複数のひずみ計で 変化あり.
 - ・2021 年 4 月 9 日から 4 月 12 日まで,四国中部(第 11 図(a),(b)).周辺の複数のひずみ計で 変化あり.
 - ・2021 年 4 月 27 日から 5 月 5 日まで,紀伊半島北部(第 12 図(a),(b)).周辺の複数のひずみ 計で変化あり.
 - ・2021 年 4 月 29 日から 5 月 6 日まで,東海(第 13 図(a),(b)).周辺の複数のひずみ計で変化あり.

なお,まとまった深部低周波地震(微動)活動は観測されなかったが,以下の期間で短期的 ゆっくりすべりが観測された.

・2021 年 2 月 23 日から 2 月 26 日まで,東海(第 8 図(a),(d)).周辺の複数のひずみ計で変化あり.

2. プレート境界とその周辺の地震活動(第14図~第15図)

想定南海トラフ地震は、陸側のプレートと沈み込むフィリピン海プレートの境界で発生する地震 である.ここでは、震源の深さと発震機構解の型からプレート境界付近で発生した地震及び発震機 構解を抽出し、プレート境界付近の地震活動の推移を示す.

第 14 図は, Hirose et al.(2008)⁷⁾及び Baba et al.(2002)⁸⁾によるフィリピン海プレート上面の深さから±6kmの地震を抽出し地震活動の推移を見たものである.

第15 図は、想定南海トラフ地震の発震機構解と類似の型の地震を抽出したものである。プレート境界で発生したと考えられる地震の他、その震源の深さから考えて明らかに地殻内やスラブ内で 発生したと推定される地震も含まれている。

3. 南海トラフ周辺の地震活動の推移(第16図~第17図)

想定南海トラフ地震は、陸側のプレートと沈み込むフィリピン海プレートの境界で発生する地震 であるが、南海トラフ周辺では、日向灘を除きプレート境界で発生する地震が少ない.ここでは、 南海トラフ周辺を個々の領域に分け、地殻内の地震とフィリピン海プレート内、もしくは浅い地震 から深い地震まで全ての深さの地震について地震活動の推移を示す.第16回は、それぞれの領域 について直近の地震活動指数を表にまとめたものである.第17回は、それらの地震活動指数の変 化を示すグラフである.

参考文献

1)気象庁 (2020),	南海トラフ周辺の地殻活動,	令和2年11月地震・火山月報(防災編),15	•
2)気象庁 (2020),	南海トラフ周辺の地殻活動,	令和2年12月地震・火山月報(防災編),25	•
3) 気象庁 (2021),	南海トラフ周辺の地殻活動,	令和3年1月地震・火山月報(防災編),15.	
4)気象庁 (2021),	南海トラフ周辺の地殻活動,	令和3年2月地震・火山月報(防災編),18.	
5)気象庁 (2021),	南海トラフ周辺の地殻活動,	令和3年3月地震・火山月報(防災編),22.	
6)気象庁 (2021),	南海トラフ周辺の地殻活動,	令和3年4月地震・火山月報(防災編),22.	

7)Hirose, F., J. Nakajima, and A. Hasegawa. (2008), *J. Geophys*. Res., **113**, doi:10.1029/2007JB005274.Three-dimensional seismic velocity structure and configuration of the Philippine Sea slab in southwestern Japan estimated by double-difference tomography.

8)Baba, T., Y. Tanioka, P. R. Cummins, and K. Uhira. (2002), *Phys. Earth Planet. Inter.*, **132**, 59-73. The slip distribution of the 1946 Nankai earthquake estimated from tsunami inversion using a new plate model.



第1図(a) 南海トラフ周辺の月別震央分布(2020年11月) Fig. 1(a) Monthly epicenter distribution in and around the Nankai Trough (November 2020).



第1図(b) つづき(2020年12月)

Fig. 1(b) Monthly epicenter distribution in and around the Nankai Trough (December 2020).



第1図(c) つづき(2021年1月)

Fig. 1(c) Monthly epicenter distribution in and around the Nankai Trough (January 2021).



第1図(d) つづき(2021年2月)

Fig. 1(d) Monthly epicenter distribution in and around the Nankai Trough (February 2021).



・発震機構解の横に「S」の表記があるものは、精度がやや劣るものである。

Fig. 1(e) Monthly epicenter distribution in and around the Nankai Trough (March 2021).

[・]発震機構解の横に「S」の表記があるものは、精度がやや劣るものである。

Fig. 1(f) Monthly epicenter distribution in and around the Nankai Trough (April 2021).

第1図(e) つづき(2021年3月)

第1図(f) つづき(2021年4月)

深部低周波地震(微動)活動

点線は、Hirose et al.(2008)、Baba et al.(2002)によるフィリピン海プレート上面の深さ(10kmごとの等深線)を示す。

第2図(a) 東海地域から豊後水道にかけての深部低周波地震活動(2020年11月~2021年1月).

Fig. 2(a) Seismic activity of Low-Frequency Events from the Tokai region to the Bungo Channel (November 2020 – January 2021).

深部低周波地震(微動)活動(2011年2月1日~2021年1月31日)

深部低周波地震(微動)は、「短期的ゆっくりすべり」に密接に関連する現象とみられており、プレート境界の 状態の変化を監視するために、その活動を監視している。

※2018年3月22日から、深部低周波地震(微動)の処理方法の変更(Matched Filter法の導入)により、それ以前と比較 して検知能力が変わっている。

第2図(b) つづき(2011年2月~2021年1月). Fig. 2(b) Continued (February 2011 – January 2021).

深部低周波地震(微動)活動

点線は、Hirose et al.(2008)、Baba et al.(2002)によるフィリピン海プレート上面の深さ(10kmごとの等深線)を示す。

第2図(c) 東海地域から豊後水道にかけての深部低周波地震活動(2021年2月~4月).

Fig. 2(c) Seismic activity of Low-Frequency Events from the Tokai region to the Bungo Channel (February – April 2021).

深部低周波地震(微動)活動(2011年5月1日~2021年4月30日)

深部低周波地震(微動)は、「短期的ゆっくりすべり」に密接に関連する現象とみられており、プレート境界の 状態の変化を監視するために、その活動を監視している。

震央分布図(2011年5月1日~2021年4月30日:過去10年間 2021年2月1日以降の震源を○で表示)

※2018年3月22日から、深部低周波地震(微動)の処理方法の変更(Matched Filter法の導入)により、それ以前と比較して検知能力が変わっている。

第2図(d) つづき(2011年5月~2021年4月). Fig. 2(d) Continued (May 2011 – April 2021).

第3図(a) 南海トラフ周辺で発生した主な地震の発震機構解(2020年11月~2021年1月) Fig. 3(a) Focal mechanism solutions for major earthquakes in and around the Nankai Trough (November 2020 - January 2021).

南海トラフ沿いとその周辺の発震機構解(2)

第3図(b) つづき (2020年11月~2021年1月) Fig. 3(b) Continued (November 2020 - January 2021).

第3図(c) つづき (2021年2月~4月) Fig. 3(c) Continued (February – April 2021).

南海トラフ沿いとその周辺の発震機構解(2)

南海トラフ沿いとその周辺の発震機構解(3)

(下半球投影)

第3図(d) つづき (2021年2月~4月) Fig. 3(d) Continued (February – April 2021).

紀伊半島北部の深部低周波地震(微動)活動と 短期的ゆっくりすべり

11月1日から6日にかけて、紀伊半島北部で深部低周波地震(微動)を観測した。この活動は 北東方向への活動域の拡大がみられた。

深部低周波地震(微動)活動とほぼ同期して、周辺に設置されている複数のひずみ計で地殻変 動を観測した。これらは、短期的ゆっくりすべりに起因すると推定される。

Fig. 4(a) Activity of deep low-frequency earthquakes in northern part of Kii Peninsula and strain changes, and the estimated slow slip region.

紀伊半島北部で観測した短期的ゆっくりすべり(11月1日~4日)

第4図(b) つづき Fig. 4(b) Continued.

11月

四国西部の深部低周波地震(微動)活動と短期的ゆっくりすべり

11月20日から27日にかけて四国西部で深部低周波地震(微動)を観測した。この活動は東方向への活動域の拡大がみられた。

深部低周波地震(微動)活動とほぼ同期して、周辺に設置されている複数のひずみ計で地殻変動を観測している。これらは、短期的ゆっくりすべりに起因すると推定される。

深部低周波地震(微動)活動

Fig. 5(a) Activity of deep low-frequency earthquakes in western part of Shikoku region and strain changes, and the estimated slow slip region.

四国西部で観測した短期的ゆっくりすべり(11月20日~25日)

第5図(b) つづき Fig. 5(b) Continued.

四国の深部低周波地震(微動)活動と短期的ゆっくりすべり

12月11日から15日にかけて四国西部で深部低周波地震(微動)を観測した。 12月15日から18日にかけて四国中部で深部低周波地震(微動)を観測した。 深部低周波地震(微動)活動とほぼ同期して、周辺に設置されている複数のひずみ計で地殻変動を観測した。 た。これらは、短期的ゆっくりすべりに起因すると推定される。

深部低周波地震(微動)活動

第6図(a) 四国西部及び四国中部の深部低周波地震活動とひずみ変化,及び推定されるゆっくりすべり領域 Fig. 6(a) Activity of deep low-frequency earthquakes in western and central part of Shikoku region and strain changes, and the estimated slow slip region.

四国中部で観測した短期的ゆっくりすべり(12月15日~17日)

四国の深部低周波地震(微動)活動と短期的ゆっくりすべり

1月10日から30日にかけて、四国西部から中部で深部低周波地震(微動)を観測した。 深部低周波地震(微動)活動とほぼ同期して、周辺に設置されている複数のひずみ計で地殻変動を観測した。これらは、短期的ゆっくりすべりに起因すると推定される。

深部低周波地震(微動)活動

第7図(a) 四国西部から四国中部の深部低周波地震活動とひずみ変化,及び推定されるゆっくりすべり領域 Fig. 7(a) Activity of deep low-frequency earthquakes in western to central part of Shikoku region and strain changes, and the estimated slow slip region.

四国西部から中部で観測した短期的ゆっくりすべり(1月15日~28日)

須崎大谷、新居浜黒島、西予宇和及び土佐清水松尾は産業技術総合研究所のひずみ計である。 *の期間にひずみの変化はみられるものの、断層モデルを精度よく求めることができない。

第7図(b) つづき Fig. 7(b) Continued.

四国西部から中部で観測した短期的ゆっくりすべり(1月15日~28日)

東海から紀伊半島の深部低周波地震(微動)活動と 短期的ゆっくりすべり

2月14日から23日にかけて東海で深部低周波地震(微動)を観測した。

2月23日から27日にかけて紀伊半島中部で深部低周波地震(微動)を観測した。 これらの深部低周波地震(微動)活動とほぼ同期して、周辺に設置されている複数のひずみ計で地 殻変動を観測した。また、深部低周波地震(微動)は観測されていないが、上記とは別に伊勢湾周辺 に設置されている複数のひずみ計で地殻変動を観測した。これらは、短期的ゆっくりすべりに起因す ると推定される。

深部低周波地震(微動)活動

東海で観測した短期的ゆっくりすべり(2月18日~21日)

第8図(b) つづき Fig. 8(b) Continued.

東海で観測した短期的ゆっくりすべり(2月18日~21日)

前図に観測されたひずみ観測点での変化量を元にすべり推定を行ったところ、低 周波地震とほぼ同じ場所にすべり域が求まった。

断層モデルの推定は、産総研の解析方法(板場ほか,2012)を参考に以下の2段階で行う。 ・断層サイズを20km×20kmに固定し、位置を0.05度単位でグリッドサーチにより推定する。 ・その位置を中心にして、他の断層パラメータの最適解を求める。

第8図(b) つづき Fig. 8(b) Continued.

紀伊半島中部で観測した短期的ゆっくりすべり(2月23日~26日)

田辺本宮、熊野磯崎及び串本津荷は産業技術総合研究所のひずみ計である。

第8図(c) つづき Fig. 8(c) Continued.

東海で観測した短期的ゆっくりすべり(2月23日~26日)

地震予知連絡会会報第 106 巻 2021 年 9 月発行

東海で観測した短期的ゆっくりすべり(2月23日~26日)

前図に観測されたひずみ観測点での変化量を元にすべり推定を行ったところ、上 図の場所にすべり域が求まった。

断層モデルの推定は、産総研の解析方法(板場ほか,2012)を参考に以下の2段階で行う。 ・断層サイズを20km×20kmに固定し、位置を0.05度単位でグリッドサーチにより推定する。 ・その位置を中心にして、他の断層パラメータの最適解を求める。

第8図(d) つづき Fig. 8(d) Continued.

紀伊半島西部の深部低周波地震(微動)活動と 短期的ゆっくりすべり

3月16日から17日にかけて紀伊半島西部で深部低周波地震(微動)を観測した。 深部低周波地震(微動)活動とほぼ同期して、周辺に設置されている複数のひずみ計で地殻変動を 観測している。これらは、短期的ゆっくりすべりに起因すると推定される。

深部低周波地震(微動)活動

第9図(a) 紀伊半島西部の深部低周波地震活動とひずみ変化,及び推定されるゆっくりすべり領域

Fig. 9(a) Activity of deep low-frequency earthquakes in western part of Kii Peninsula and strain changes, and the estimated slow slip region.

紀伊半島西部で観測した短期的ゆっくりすべり(3月16日~17日)

三重県から和歌山県で観測されたひずみ変化

田辺本宮、熊野磯崎及び串本津荷は産業技術総合研究所のひずみ計である。

第9図(b) つづき Fig. 9(b) Continued.

四国西部の深部低周波地震(微動)活動と短期的ゆっくりすべり

3月20日から4月1日にかけて、四国西部で深部低周波地震(微動)を観測した。 深部低周波地震(微動)活動とほぼ同期して、周辺に設置されている複数のひずみ計で地殻変動を観測した。これらは、短期的ゆっくりすべりに起因すると推定される。

深部低周波地震(微動)活動

第 10 図(a) 四国西部の深部低周波地震活動とひずみ変化,及び推定されるゆっくりすべり領域 Fig. 10(a) Activity of deep low-fr quency earthquakes in western part of Shikoku region and strain changes, and the estimated slow slip region.

四国西部で観測した短期的ゆっくりすべり(3月23日~24日)

西予宇和、土佐清水松尾及び須崎大谷は産業技術総合研究所のひずみ計である。

第 10 図(b) つづき Fig. 10(b) Continued.

四国中部の深部低周波地震(微動)活動と 短期的ゆっくりすべり

4月9日から12日にかけて、四国中部で深部低周波地震(微動)を観測した。 深部低周波地震(微動)活動とほぼ同期して、周辺に設置されている複数のひずみ計で地殻変動を 観測した。これらは、短期的ゆっくりすべりに起因すると推定される。

第11図(a) 四国中部の深部低周波地震活動とひずみ変化,及び推定されるゆっくりすべり領域 Fig. 11(a) Activity of deep low-frequency earthquakes in central part of Shikoku region and strain changes, and the estimated slow slip region.

四国で観測したひずみ変化

愛媛県から高知県で観測されたひずみ変化

新居浜黒島、須崎大谷及び西予宇和は産業技術総合研究所のひずみ計である。

第 11 図(b) つづき Fig. 11(b) Continued. *の期間にひずみの変化はみられるものの、断層モデルを精度よく 求めることができない。

紀伊半島北部の深部低周波地震(微動)活動と 短期的ゆっくりすべり

4月27日から5月5日にかけて、紀伊半島北部で深部低周波地震(微動)を観測した。 深部低周波地震(微動)活動とほぼ同期して、周辺に設置されている複数のひずみ計で地殻変動を 観測した。これらは、短期的ゆっくりすべりに起因すると推定される。

第12図(a) 紀伊半島北部のひずみ変化,及び推定されるゆっくりすべり領域

Fig. 12(a) Activity of deep low-frequency earthquakes in northern part of Kii Peninsula and strain changes, and the estimated slow slip region.

紀伊半島北部で観測した短期的ゆっくりすべり(4月29日~5月2日)(速報)

熊野磯崎、田辺本宮、串本津荷及び津安濃は産業技術総合研究所のひずみ計である。

第 12 図(b) つづき Fig. 12(b) Continued.

東海の深部低周波地震(微動)活動と 短期的ゆっくりすべり

4月29日から5月6日にかけて、東海で深部低周波地震(微動)を観測した。 深部低周波地震(微動)活動とほぼ同期して、周辺に設置されている複数のひずみ計で地殻変動を 観測した。これらは、短期的ゆっくりすべりに起因すると推定される。

深部低周波地震(微動)活動

第13図(a) 東海のひずみ変化,及び推定されるゆっくりすべり領域

Fig. 13(a) Activity of deep low-frequency earthquakes in Tokai region and strain changes, and the estimated slow slip region.

東海で観測した短期的ゆっくりすべり(4月30日~5月4日)(速報)

愛知県から静岡県で観測されたひずみ変化

第13図(b) つづき Fig. 13(b) Continued.

東海で観測した短期的ゆっくりすべり(4月30日~5月4日)(速報)

前図に観測されたひずみ観測点での変化量を元にすべり推定を行ったところ、 低周波地震とほぼ同じ場所にすべり域が求まった。

断層モデルの推定は、産総研の解析方法(板場ほか,2012)を参考に以下の2段階で行う。 ・断層サイズを20km×20kmに固定し、位置を0.05度単位でグリッドサーチにより推定する。 ・その位置を中心にして、他の断層パラメータの最適解を求める。

第 13 図(b) つづき Fig. 13(b) Continued.

プレート境界とその周辺の地震活動 フィリピン海プレート上面の深さから±6km未満の地震を表示している。 日向灘の領域e内のみ、深さ20km~30kmの地震を追加している。 震央分布図 (1997年10月1日~2021年4月30日、M≥1.5、2021年2月以降の地震を赤く表示) 200km 36° N 2020年6月10日 1999年5月7日 2009年5月25日 21km M4.7 20km M4.9 26km M4.7 (\mathbb{N}) 2 М 34° N 7.0 領域c × *** 2014年8月29日 30km 日向灘 * 18km M6.0 6.0 20km 2019年5月10日 5.0 07時43分 25km M5.6 2009年4月5日 1.0km 領地 4.0 **彩田** 28km M5.6 福城。 3.0 2019年5月10日 四国 2.0 08時48分 25km M6.3 Έß 1.5 132°E 134°E 136°E 領域e 南海トラフ巨大地震の想定震源域内の時空間分布図 А (A-B投影) 20 東海) 46 860 BOS. Ø 800 3 3 紀伊半島 30 Q Ť \$\$\$\$°\$\$ øĝ. 00 ~ Q ~ 0 四国 ° @00 °° B Broken 88 GR CO Č 3000 66 日向灘 В 2000 2015

2000 2005 2010 2015 2020 ・フィリピン海プレート上面の深さは、Hirose et al.(2008)、Baba et al.(2002)による。 震央分布図中の点線は10km ごとの等深線を示す。

・日向灘のM5.5以上の地震、その他の領域のM4.5以上の地震に吹き出しを付している。

・発震機構解の横に「S」の表記があるものは、精度がやや劣るものである。

第14図 プレート境界とその周辺の地震活動

Fig. 14 Seismic activity around the plate boundary.

プレート境界とその周辺の地震活動

フィリピン海プレート上面の深さから±6km未満の地震を表示している。

震央分布図の各領域内のMT図・回数積算図

2000

2005

2010

2015

2020

第14 図 プレート境界とその周辺の地震活動

2000

2005

Fig. 14 Seismic activity around the plate boundary.

2010

2015

2020

想定南海トラフ地震の発震機構解と類似の型の地震

震央分布図(1987年9月1日~2021年4月30日、M≥3.2、2021年2月~4月の地震を赤く表示)

・フィリピン海プレート上面の深さは、Hirose et al.(2008)、Baba et al.(2002)による。 震央分布図中の点線は10kmごとの等深 線を示す。

・今期間に発生した地震(赤)、日向灘のM6.0以上、その他の地域のM5.0以上の地震に吹き出しを付けている。

・発震機構解の横に「S」の表記があるものは、精度がやや劣るものである。

・吹き出しの右下の数値は、フィリピン海プレート上面の深さからの差を示す。+は浅い、-は深いことを示す。

・吹き出しに「CMT」と表記した地震は、発震機構解と深さはCMT解による。Mは気象庁マグニチュードを表記している。 ・発震機構解の解析基準は、解析当時の観測網等に応じて変遷しているため一定ではない。

第15図 想定南海トラフ地震の発震機構解と類似の型の地震 Fig. 15 Earthquakes whose focal mechanisms were similar to that of the anticipated Nankai Trough earthquake.

南海トラフ巨大地震の想定震源域とその周辺の地震活動指数

2021年4月30日

領域		①静 中团	岡県 雪部	②愛知県		③浜4 周i	ム湖 ④射 D 浮		愛河 S	⑤ 東海		⑥東南 海	⑦ 南海	
		地	プ	地	プ		プ		全		全		全	全
地震活動指数		5	4	5	4		6		4	ŀ	4		2	4
平均回数		16.5	18.5	26.5	13.	13.7		13.5		.2	18.2	2	19.4	21.3
Mしきい値		1.	1	1.1			1.1		1.	.4 1.		2.0		2.0
クラスタ	距離	3k	m		3km		3k	m	10	km	10ki	m	10km	10km
除去	日数	71	Ξ		7日		7日		10	日 10日		Ξ	10日	10日
対象	期間	60日	90日	60日	30	日	360日		18	D日 90E		Ξ	360日	90日
深さ		0~ 30km	0~ 60km	0~ 30kn	0~ 1 60k	_ (m	0~ 60km		0, 60	~ km	0~ 60ki	m	0~ 100km	0~ 100km
領域		南海ト ⑧東側	ラフ沿い 10西·		①日向 灘		2紀伊 半島)紀伊 (13和 半島 L		14四国		15紀伊 半島		16四国
		全	全		全	 全		地		地			プ	プ
地震活動	動指数	4	1		5		4	1		5			5	2
平均[回数	12.0	14.7	7 20.7			22.8	41.7		30.5		2	27.7	28.1
Mしきい値		2.5	2.5		2.0		1.5	1.5		1.5			1.5	1.5
クラスタ	距離	10km	10ki	n 1	0km		3km 3		km	3	ßkm	69	3km	3km
除去	日数	10日	10 E	3	0日	0日		7	7日		7日		7日	7日
対象期間		720日	360		60日	0日 1		60日		9	90日		80日	30日
深さ		0~ 100km	0~ 100k	, (m 1	0~ 100km		0~ 20km	20	0~ 20km		0~ Okm		20~ 00km	20~ 100km

*基準期間は、全領域1997年10月1日~2021年4月30日

*領域欄の「地」は地殻内、「プ」はフィリピン海プレート内で発生した地震であることを示す。ただし、震源の深さから便宜的に分類しただけ であり、厳密に分離できていない場合もある。「全」は浅い地震から深い地震まで全ての深さの地震を含む。

* ⑨の領域(三重県南東沖)は、2004年9月5日以降の地震活動の影響で、地震活動指数を正確に計算できないため、掲載していない。

*Hirose et al.(2008)、Baba et al.(2002)によるプレート境界の等深線を破線で示す。

南海トラフ周辺の地震活動指数の表 第16図

Fig. 16 Table of seismic activity levels in and around the Nankai Trough.

第 17 図 南海トラフ周辺の地震活動指数の推移 Fig. 17 Time series of seismic activity levels in and around the Nankai Trough.

第17図 南海トラフ周辺の地震活動指数の推移

Fig. 17 Time series of seismic activity levels in and around the Nankai Trough.

地震活動指数一覧

2021年04月30日

- 第17図 南海トラフ周辺の地震活動指数の推移
- Fig. 17 Time series of seismic activity levels in and around the Nankai Trough.